

## 談話室

## 第14回表面科学講演大会

国森 公夫

筑波大学物質工学系  
〒305 つくば市天王台 1-1-1

(1995年3月10日受理)

## The 14th Conference on Surface Science

Kirio KUNIMORI

Institute of Materials Science,  
University of Tsukuba  
Tsukuba, Ibaraki 305

(Received March 10, 1995)

本会主催の第14回表面科学講演大会は、平成6年11月30日～12月2日の3日間、早稲田大学総合学術情報センター国際会議場において開催されました。本年度運営を担当した立場から、今大会の概要を報告いたします。

## 1. 講演件数、講演分野

講演件数は、一般講演116件、シンポジウム講演8件、特別講演1件、受賞講演2件のあわせて127件、参加者は280名(会員198名、学生68名、一般14名)といずれも昨年より少し増加しました。講演分野をセッション別にみると、表面分析法・評価23件、表面化学・触媒24件、STM・AFM22件、表面物理22件、半導体9件、薄膜6件、表面処理5件、ならびにイオン・電子と表面5件となっています。ただし、この分類はプログラム編成上のものであり、講演内容が各分野にまたがっている場合が多く、本学会の特徴の一つ(学際性)になっています。また、外国人研究者による英語の発表件数も増え、国際性も本学会の特徴になりうると感じています。

## 2. 受賞講演、シンポジウム、特別講演

ここ数年恒例となった受賞講演は、論文賞受賞者を代表して岡本昌幸氏(花王素材研究所)の「SIMSによる表面化学種解析法の研究」、奨励賞受賞者の藤波真紀氏(新日本製鉄先端技術研究所)の「単色陽電子ビーム

によるイオン注入されたSiウエハーの表面欠陥解析」の各題目で行われました。

シンポジウムは「走査型プローブ顕微鏡の新たな展開」のテーマで2日目に井深大ホールで行われました。講演題目は、「フォトンSTM」、「走査型マックスウェル応力顕微鏡」、「温度可変STM」、「AFMの新展開」の新しい手法に関するもの、「SPMとLEEDによる半導体表面」、「STMによる半導体吸着過程と原子・分子操作」、「有機薄膜のSPM」、「有機分子の凝集構造と分子記憶」の応用に関するもので、最近の話題についてたいへん盛況で活発な議論が展開されました。

また、表面物理・化学で有名なCambridge大学のD. A. King教授による特別講演「Non-linear effects in adsorption and reaction dynamics at surface」も行われました。

## 3. 講演大会委員会の発足

今まで講演大会の運営は、担当理事を中心に(企画委員会の協力も得て)小人数で行われてきましたが、昨年11月より講演大会委員会(委員12名)が発足しました。講演件数の増加とともに会場数、プログラム編成などの運営上の問題だけでなく、長期的視野に立つ新しい展開が必要です。「表面科学」は、基礎・応用も含めた本来もっと広い範囲の学問分野に関係しています。講演分野およびセッションの設定の問題、シンポジウムのあり方など、今後の本学会の発展のために、講演大会の役割は重要です。会員の皆様のご意見をぜひ事務局または関係各位にお寄せいただきますようによりしくお願いいたします。

## 4. おわりに

第15回講演大会は、平成7年11月28日(火)～11月30日(木)の3日間同じ早稲田大学国際会議場にて開催されます。講演申込締切り日は8月28日(月)で例年より数日早くなっています。

第11回大会から連続同じ場所での開催ですが、早稲田大学からは、ゆったりしたスペースと近代的設備が整えられた素晴らしい雰囲気の間を会場を提供いただき、運営上も多大なる援助を賜りました。末筆ながら記して感謝申し上げます。